



亀岡市長の 栗山でございます。

京都府の新しい専用球技場の誘致にあたり、プレゼンテーションの機会を頂きまして、誠にありがとうございます。

亀岡市は、この専用球技場を「京都・亀スタ」と名付け、京都・亀岡が誇る「水」、「緑」、「自然」と共生するスタジアムにしたいと考えております。

専用球技場に関わる様々な人達と、「亀の甲」のように、しっかりとスクラムを組み、専用球技場の実現と運営をバックアップします。

候補地の位置



2

候補地は、JR亀岡駅と保津川（桂川）の間に、位置する農地です。

JR亀岡駅から至近の位置にあり、優れた立地条件を有しています。

JR亀岡駅北口からの眺望



3

緑豊かな山並みを背景として、田園が広がり、日本の原風景と言える美しいパノラマ（景観）を望めます。

ここに、景観と調和した専用球技場を配置すれば、日本のみならず世界に誇れる「自然と共生する球技場」になると、確信しています。

亀岡市こそふさわしい

4つの セールス ポイント

1 優れた立地

2 府域の均衡ある発展
に貢献

3 市民サポート体制

4 環境共生

4

それでは、候補地の4つのセールスポイントを述べさせていただきます。

1 優れた立地

◆JRの大量輸送力（複線）

◆高速道路網に直結

5

1 点目のポイントは優れた立地です。

JR山陰本線による大量輸送が可能であり、高速道路網にも直結するという立地であります。



JR京都駅と亀岡駅間は、特急で18分、快速で20分で結ばれております。

また複線化されており、増発が可能で、短時間で大量輸送が可能です。

このことは、毎年の亀岡保津川花火大会で実証されております。



亀岡駅からは250m、徒歩3分であります。



候補地を中心に半径20kmの範囲に、久御山JCT、茨木ICも入ります。

京都第二外環状道路の完成により、本年度、京都縦貫自動車道が大山崎JCTにつながります。

このことにより、名神高速道路から京都縦貫自動車道を通じて、直接亀岡への乗り入れが可能となります。



また、候補地は市内のインターから至近の位置にあります。

車で来場される方は、亀岡ICで降りて、国道9号などを通り、中心市街地を回避するルートにより、6分前後で候補地に到着します。

これだけの交通アクセス、利便性の高い所は、他にないと思っております。

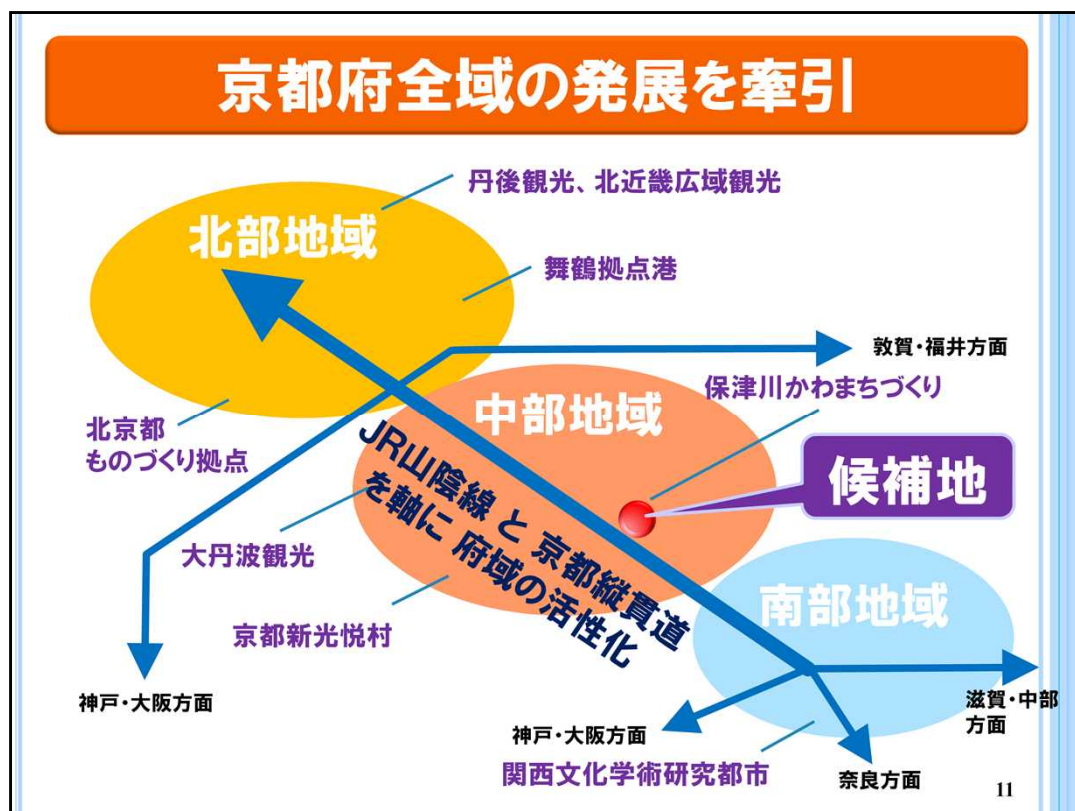
2 府域の均衡ある発展 に貢献

◆京都府全域の発展を牽引

◆府中部の活力拠点

10

2点目のポイントは、亀岡市が京都府の中央部に位置していることをいかし、新たな活力拠点としての機能を高め、府域の均衡ある発展に貢献出来ることとなります。



山陰本線と京都縦貫自動車道を京都府の背骨としてイメージしています。

候補地は、まさしく、背骨の中央部に位置しておりまして、専用球技場でのスポーツや文化活動により、京都府のビッグプロジェクトとも相まって、大きな経済効果がもたらされます。

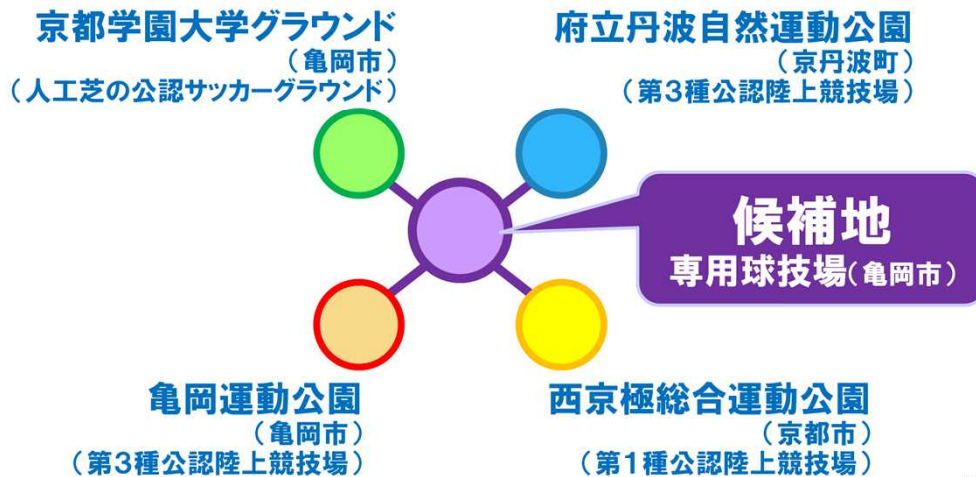
専用球技場は、府域の均衡ある発展を大きく牽引いたします。

多様な効果が、府域の中央部から、波紋のように限りなく広がります。

そこに大きな意義があると確信しています。

地域のスポーツ施設連携の核

- ◆ スポーツ施設の連携で広域的なスポーツ振興
- ◆ 国際大会等の誘致にも有利



12

専用球技場は、西京極総合運動公園や丹波自然運動公園などの近隣スポーツ施設との連携の核となり、広域的なスポーツ振興と国際大会などの誘致・運営が円滑に出来ます。

観光との連携

◆ 自然と癒しが満喫できる観光資源による誘客



トロツコ列車



湯の花温泉



保津川下り

13

トロツコ列車と保津川下り、そして、湯の花温泉など、府中北部を代表する観光資源とのネットワークで、集客力の高い専用球技場となります。

美味しい「水」、きれいな「空気」、豊かな「自然」、そして癒しが満喫できる、まさに健康ツーリズム（観光事業）の新たな拠点となります。

多様な用途に活用し 府域の活性化に寄与

【にぎわい】

- ◆コンサート、府民交流フェスティバル
- ◆青空市、フリーマーケット

【環境・観光】

- ◆大駐車場を活用し
京都市方面のパーク&ライドの拠点

【安全・安心】

- ◆広域的防災拠点として活用
(直下に活断層が認められない)

14

多様な用途に活用することにより、専用球技場は府域の活性化に寄与するものと考えております。

コンサートや交流イベントの開催で「にぎわいを創出」し、全世代が、身近な施設とすることが出来ます。またグランドゴルフ大会なども開催し、運営をバックアップしてまいります。

広域観光の面からは、嵯峨・嵐山をはじめとする京都市方面へのパーク&ライドの拠点として、大駐車場を活用し、都市部の交通混雑の緩和と観光振興、そして環境負荷の低減を図ることが出来ます。

この駐車場の有効活用および利用料による施設運営への収入確保の追加方策として、平日は京都市内などへの通勤者用のパーク&ライドに活用し、市民の利便性向上を図ることも可能となります。

さらに災害支援物資の備蓄・集積、また、地震などの大災害時の避難場所に活用出来るとともに、府域中央部の災害対策の拠点機能を果たすことが出来ます。

候補地の地盤については、直下に「活断層」は、認められておりません。



まちづくりとの融合、活力拠点として

1つ目は、「亀岡駅北口のまちびらき」で、これは、黄色の区域の14.7haの区画整理を行うものです。商業・サービス施設の配置を進め、「専用球技場」のある魅力的なエリアを築けることとなります。

2つ目は、保津川をいかした「かわまちづくり計画」に基づき、21haの河川敷を京都府の支援をいただきながら「スポーツ広場」や「水辺空間」として整備するとともに、松並木や桜並木の整備も亀岡市が、民間団体・NPOの参画を得て取り組んでおります。

区画整理による「まちびらき」と川をいかした「かわまちづくり」、これらを支える「道路などのインフラ整備」を進め、府中部地域の都市核・活力拠点を形成します。

3 市民サポート体制

◆市民の大きな盛り上がり

◆亀スタ サポート会の発足

16

3点目のポイントは、亀岡市民の大きな盛り上がりを継続・拡大し、専用球技場の「サポート体制」を作ります。

市民の大きな盛り上がり

「京都・亀岡に大規模スポーツ施設を誘致する会」

- ◆平成23年11月20日設立
- ◆参画団体数 **33団体**
- ◆総数**5万人超**の誘致署名



17

市民の大きな盛り上がりの中で、昨年、経済界を中心に専用球技場を「誘致する会」が発足しました。

参画団体はスポーツ界をはじめ33団体で、個人会員は3,200名を超えています。

この「誘致する会」が亀岡市での球技場の建設を願う署名活動を展開され、前述の個人会員を含めると56,012名の署名が集まりました。

まさに、亀岡市への球技場の誘致・建設を熱望する署名であり、全市民の6割にもおよぶものであります。

市民の多彩なスポーツ活動が 球技場をバックアップ

◆ 府民総体

★平成22年度 **優 勝**

★平成23年度 **準優勝**



◆ 京都学園大学サッカー部

★関西学生サッカーリーグで活躍

◆ 京都サンガFCが学園大でサッカー指導

(小学生スペシャルプログラムコースなど)

18

市民のスポーツ活動は、サッカー、ラグビー、グランドゴルフをはじめ、駅伝など様々な競技が盛んであります。

府民総体では、毎年、素晴らしい成績を収めています。

京都サンガ（FC）との関係では、京都学園大学サッカー部にスペシャルコーチの派遣を受け、学園大学はリーグ戦で活躍されています。

さらに、京都サンガの競技普及プログラムで、小学4年生から6年生、35名が学園大学のグラウンドで指導を受けています。

亀スタ サポート会

- ◆ スタジアム運営のボランティア活動
- ◆ スポーツ活動の支援
- ◆ チケットの販売促進、PR促進
- ◆ 「亀岡ジュニアサポート会」の結成支援
(ジュニア用チケットに助成)



19

専用球技場を支援するため、「誘致する会」を中心に、「亀スタ サポート会」を設立し、様々なボランティア活動・チケットの販売促進・ジュニアサポート会の結成・親子観戦時のジュニアチケットの助成などを行いたいと考えています。

さらに球技場の利用促進を図るために、サッカー、ラグビー、グランドゴルフなどの市民大会の開催を企画し支援してまいります。

地元の全面協力

◆ 地権者等による

『保津町大規模スポーツ施設誘致促進協議会』

昨年12月に設立

地元の全面的な協力体制が確立

◆ 施設の段階的な 拡大整備が可能

市民による誘致活動



20

用地については、借地により確保します。

候補地の亀岡市保津町では、地権者などによる「誘致促進協議会」を設立され、専用球技場の用地確保などに全面協力の体制が整っております。

また、候補地の周辺は農地であり、敷地拡大の余地（余裕）が十分にあり、施設の段階的な拡大整備が可能です。

4 環境共生

◆希少生物との共生

◆市民参加の環境保全

21

4点目のポイントは、候補地周辺には希少生物のアユモドキが棲息しています。

アユモドキの棲息環境を保全し、自然環境と共生する、まさに京都が世界に誇れるスタジアムを市民とともに作ります。

サンクチュアリ(野生生物の保護区域)を 設け、アユモドキ等の棲息環境を創出

「共生ゾーン」=サンクチュアリ



撮影者 平田 智法氏
天然記念物 アユモドキ

22

専用球技場に隣接する環境共生ゾーンに、専門家の指導を得ながら、アユモドキなどの保護区域を設けるとともに、これまでも増して、市民の参画を得て、棲息環境の保全と創出を図ります。

自然との共生と周辺環境

- ◆ 希少生物との共生
 - ◆ 市民参加による環境保全
 - ◆ 水棲生物の専門家の指導
 - ◆ 水田や水路の保全
-
- ◆ 照明光、騒音、交通渋滞など
住宅地との距離があり
周辺住民に影響がない



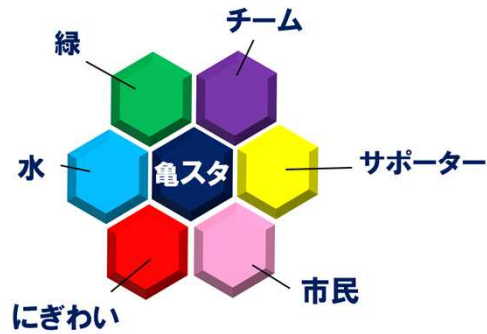
アユモドキ保護活動

23

周辺地域への「光の害や騒音」については、亀岡駅周辺は商業地域であり、住居地域から500m程度の距離があります。

自動車交通量の増加には、中心市街地を回避する道路整備により「自然と共生する球技場」、「人と環境にやさしい球技場」を目指します。

亀岡市の総力をあげ プロジェクトの推進を図ります



ご清聴ありがとうございました

24

結びに、専用球技場に関わる競技チーム、サポーター、市民などの様々な人達とともに、亀岡の誇る水と緑、自然環境を大切にしながら、京都府の中央部からの新たな賑わいの創出を目指し、「亀の甲」のようにしっかりとスクラムを組んで、京都府全域の均衡ある発展のため、亀岡の総力を挙げ、専用球技場の実現を目指すとともに、実現すれば、そのバックアップを行います。

ありがとうございました。よろしくお願いいたします。